

<b>目次</b>	<b>■多文化関係学会第15回年次大会について</b>	<b>2</b>
	2016年度年次大会へのいざない…2 大会概要のご案内…3	
	ラウンドテーブルディスカッション発表者募集…4	
	2016年度年次大会研究発表募集要項…5 石井奨励賞…6	
	大会までのスケジュールと参加費…6	
	<b>■2016年度理事会議事録抄録</b>	<b>7</b>
	<b>■地区研究会報告</b>	<b>9</b>
	関東…9 関西・中部…10 九州…12	
	<b>■地区研究会案内</b>	<b>13</b>
	北海道・東北…13 関西・中部…13 中国・四国…14	
	<b>■お知らせ</b>	<b>15</b>
	Web管理委員会より…15 学会誌編集委員会より…15	
	学術委員会より…15 事務局より…16 新入会員紹介…16	
	NL委員会より…17 会員新著紹介…17	
	<b>■編集後記</b>	<b>18</b>

<b>CONTENTS</b>	<b>■Announcements of the 15th Annual JSMR Conference</b>	<b>2</b>
	Message from the Conference Committee Chair…2	
	About Conference…3	
	Inviting Participants in the Round Table…4	
	Call for Papers…5 The Ishii Yoneo Award…6	
	Future Schedule and the Conference Fee…6	
	<b>■Records of the 2016 Board Meetings</b>	<b>7</b>
	<b>■Reports from the Regional Study Meetings</b>	<b>9</b>
	Hokkaido・Tohoku…9 Kansai・Chubu…10 Kyusyu…12	
	<b>■Announcements on the Regional Study Meetings</b>	<b>13</b>
	Hokkaido・Tohoku…13 Kansai・Chubu…13	
	Cyugoku・Shikoku…14	
	<b>■Announcements</b>	<b>15</b>
	From the Web Committee…15	
	From the Journal Editorial Committee…15	
	From the Academic Affairs…15 From the Business Office…16	
	Introducing New Members…16	
	From the News Letter Committee…17 New Publications…17	
	<b>■Editor's Notes</b>	<b>18</b>

## 多文化関係学会 第15回年次大会 多様性を育む社会—繋がりと協働の未来に向けて

【開催日】10月1日(土)および2日(日)(プレカンファレンス9月30日(金))

【会場】佐賀大学 本庄キャンパス(佐賀県佐賀市)

研究発表を募集中です。

応募要領は、5頁の「大会研究発表募集要項」および学会ホームページ  
(<http://www.js-mr.org/>)をご覧ください。

＜✂切：6月8日(水)に延長されました！＞

### 多文化関係学会 2016年度年次大会への誘い

年次大会委員長 中川典子 (流通科学大学)

まず、この場をお借りし、4月に発生しました熊本地震によりお亡くなりになられた方々へ心からのご冥福と、被災された皆さまへ謹んでお見舞い申し上げます。

社会における多様性尊重の重要性が叫ばれて久しいにも関わらず、それが未だ私たちの日常に浸透していない実情があることは否めません。初日(10月1日)の特別講演では、「コムスタカー外国人と共に生きる会」の代表をお招きし、これまでの団体の活動と支援を実践していくうえでの課題についてお話いただけます。「コムスタカー外国人と共に生きる会」は30年余りの長きに渡り、アジアから日本に働きに来ていた女性の相談や支援を行うNGOとして、外国籍住民が直面する様々な問題に取り組んでこられました。講演ではこれまでの活動の実践と今年の4月に発生した熊本地震における外国人被災者の支援活動についてお話をいただき、私達がめざすべき多文化共生の未来について考える機会を持ちたいと思います。

開催の地である九州地方は太古より大陸文化の窓口として歴史的、文化的にも重要な役割を果たしてきました。2日目に開催される学際シンポジウムでは、西九州の歴史や日本とアジアとの交流史を専門とする講師の方々をお招きし、各々の専門の立場からお話いただけます。先人たちが辿った道筋を振り返ることは、多文化社会の現代に生きるわたしたちに、きっと何らかのヒントを与えてくれることでしょう。

今回のテーマにある「協働の未来」には、多文化社会の実現に向けての協働と共に、多文化関係の研究と実践の未来を担う若手研究者の人たちへのエールの意味が込められています。そこで、本大会では、

大学院生およびポストドクターの方々を対象にしたキャリア・セッションを趣旨としたラウンドテーブルトーク、および、昨年度に引き続き、英語によるショートスピーチセッションとフロアとのディスカッションを目的としたラウンドテーブルディスカッションの二つの特別企画を設けました。また、9月30日のプレカンファレンスセミナーでは、現在、脚光を浴びている研究手法の一つである混合研究法セミナーを開催し、多文化関係学研究におけるその実践方法と留意点について学びます。

ところで、皆さんは、「佐賀」と聞かれると何を思い起こされるでしょうか。2016年に有田焼創業400年を迎えた佐賀は、近年中国・韓国・タイを中心としたアジア各国からの観光客で大変にぎわっています。佐賀市は南に有明海を望み、北に天山と背振山を仰ぐ風光明媚な土地柄を誇ります。また、2015年7月に世界遺産への登録が決定した明治日本の産業革命遺産や弥生時代の遺跡で国の特別史跡である吉野ヶ里遺跡など多くの歴史的遺産があることでも有名です。佐賀へのアクセスは空路、陸路ともに大変便利です。新幹線をご利用の場合は、博多駅で特急「かもめ」「みどり」に乗り換え40分で佐賀駅に到着します。新幹線・新鳥栖駅で乗り換えの場合は15分で到着します。飛行機でお越しの場合は、福岡空港または佐賀空港のどちらも利用可能です。

今年、本学会は創設から15周年を迎えます。この記念すべき大会を悠久の地、佐賀で開催できることに感謝の思いを抱きつつ、大会準備委員一同、「協働」の精神のもと皆様方のお越しを心よりお待ちしております。

## 2016年度年次大会概要のご案内

9月30日(金)プレカンファレンス 10月1日(土)、2日(日)年次大会

### 【年次大会運営委員】

石黒 武人(順天堂大学)奥西 有理(岡山理科大学)金本 伊津子(桃山学院大学)  
小坂 貴志(神田外語大学)出口 朋美(近畿大学)中川 典子(流通科学大学)  
湊 邦生(高知大学)山田 直子(佐賀大学) \*アイウエオ順

### 【プログラム内容】

#### 1. プレカンファレンス「多文化関係学研究者のための混合研究法入門セミナー」

講師:抱井 尚子 氏(青山学院大学国際政治経済学部国際コミュニケーション学科教授、日本混合研究法学会理事長)

本セミナーは、多文化関係学研究者を対象とした、混合研究法入門セミナーです。混合研究法(MMR)は、単一の研究プロジェクトにおいて、意図的に質的・量的データを収集・分析・統合する研究アプローチです。本セミナーでは、多文化関係学が扱う研究テーマの特徴に留意しながら、多文化関係学研究においてどのようにMMRを用いることができるか、またその際にどのような点に留意するべきかを、具体的な研究例を交えながら解説します。研究経験が浅い大学院生の参加を歓迎します。

司会:中川典子(流通科学大学)

#### 2. 特別講演「共に生きる未来へー熊本での被災者支援と移住女性支援から考える」

講師:中島 眞一郎 氏(コムスタカ-外国人と共に生きる会 代表)

コムスタカは、フィリピン語で「お元気ですか」という意味です。1985年9月に「滞日アジア女性問題を考える会」として発足したコムスタカは、「あらゆる人がその属性に関係なく守られる社会こそ、私たち皆が安心して暮らせる社会であり、外国籍住民の抱える様々な問題は、私たちみんなの問題なのだとことを、多くの方に理解してもらうために活動する」との理念のもと設立されました。そして、これまで30年余りに渡って、アジアから日本に働きに来ている女性の相談や支援を行うNGOとして、外国籍住民が直面する様々な問題に取り組んできました。今回の講演では、興行ビザでアジアから働きに来ていた外国人女性から始まり、日本人と外国人の間に生まれ養育放棄された国際児、DV等で悩む日本人配偶者となった移住女性、労働搾取される技能実習生や熊本地震による外国人被災者からの相談と救援活動の実践について報告し、私達のめざすべき多文化共生の未来について考えます。

コーディネーター:松永典子(九州大学)

#### 3. ラウンドテーブルトーク 「大学院生およびポストドクター対象キャリア・セッション」

本セッションでは、大学院生およびポストドクターの方々を対象に、本学会所属の若手教員3名をスピーカーとして招き、ファシリテーターとともにラウンドテーブルトーク形式によるキャリア相談を行います。本学会として初の試みとなるセッションです。一般会員の皆様をはじめ、大学院生およびポストドクターの方々のご参加をお待ちしております。

##### 【登壇者】

・出口 朋美 氏(近畿大学法学部講師)

ご専門の英語教育・異文化間コミュニケーションに加え、女性のキャリア形成について話題を提供していただきます。

・呉 小莉 氏(城西国際大学留学生別科准教授)

中国から研究員として来日後、日本で就職し、仕事をしながらキャリアアップを目指し大学院で社会人院生として学位を取得し、大学で職を得られた経験から、外国人教員のキャリア形成を中心にお話しいたします。

・湊 邦生 氏(高知大学地域協働学部准教授)

学位取得後に複数の研究機関で勤務した経験をもとに、キャリアの継続、業務と研究との関係等について、話題を提供していただきます。

ファシリテーター:石黒武人(順天堂大学)

#### 4. 学際シンポジウム「温故知新一交流史から見た東アジア世界」

九州は太古より大陸文化の窓口として歴史的、文化的に重要な役割を果たしてきました。シンポジウムでは、西九州の中世史または東アジアと日本の交流史を専門とする3名の講師の方々をお招きし、各々のテーマについてお話いただきます。

宮武 正登 氏(佐賀大学全学教育機構教授・佐賀大学地域学歴史文化研究センター長)

【タイトル】「中世肥前しようと思う。の異文化交流の諸相」

【概要】 玄界灘と東シナ海を介して諸外国と接してきた肥前地方(現佐賀・長崎両県)では、大陸との直接交易を成長の基盤とした武士団や、南蛮貿易を通じて独創的文化を育んだ戦国大名らが蟠踞した。その活動痕跡の一端を紹介

伊藤 幸司 氏(九州大学大学院比較社会文化研究院准教授)

【タイトル】「海域ネットワークと宗教」

【概要】 日本伝統文化として溶け込んでいる禅宗文化は、本来は中国最先端の仏教文化として平安末・鎌倉期の日本社会に受容された。日本で最初に禅宗が展開したのは、中世日本最大の国際貿易港であった博多であり、博多では京都や鎌倉に先駆けて博多禅とよばれる独特の禅宗文化が華開いた。こうした禅宗が日本へ流入し、その後、禅宗が日本文化として変容していく背景には、東アジア海域の交流の変化があった。シンポ報告では、東アジア海域の動向と連動する禅宗という宗教のありようについて述べてみたい。

渋谷 百代 氏(埼玉大学人文社会科学部研究科准教授)

【タイトル】「南洋日本人町:東アジア世界と跨境日本人」

【概要】 近世、そして近代の東アジア各地に出現した日本人町。異郷にできた日本人社会とその周辺地域の人々との関係を中心に、当時の東アジア世界に日本人がどう参加して活動を展開していたかを整理すると共に、東アジアの中の“境界線”について考える。

指定討論者: 舛谷鋭氏(立教大学)

コーディネーター: 金本伊津子(桃山学院大学)

#### 5. ラウンドテーブルディスカッション:「プレゼン力を磨く! -英語で語る私の研究(2)」

2015年度大会に引き続き、大学院生や若手研究者を対象とした英語によるショートスピーチセッションを開催します。参加者とのディスカッションを通じて、自身の研究を深めていただきます。

コーディネーター: 小坂貴志(神田外語大学)、出口朋美(近畿大学)

## ラウンドテーブルディスカッション発表者募集

以下の要領で、若手研究者(主に大学院生、留学生)向けにラウンドテーブルディスカッション(ミニ発表会)を企画致しますので、奮ってご応募ください。

【趣旨】 2015年度大会に引き続き、英語でミニ発表に慣れていただくための教育企画を実施します。今後さらに盛んになる研究者の海外交流のために、日本を拠点とする多文化関係学の研究者の声を世界に英語で届ける一歩を踏み出しませんか。

【時間】 90分

【使用言語】 英語

【具体的な内容】 多文化関係学にふさわしい内容のミニ発表(英語)を**4件程度**募集します。発表者はパワーポイントやハンドアウトを用意し、8~10分程度の研究発表をした後、5分間フロアと質疑応答をおこない、そのあとで、3分程度、コーディネーターからコメントやアドバイスを受けます。最後に総括とディスカッションの時間を設けます。

【応募資格】 非会員の方でも会員の推薦があれば申し込みできます。非会員の方でお申し込みされる場合には、申し込みフォームに、推薦者(会員)の氏名を記載してください。

【応募資料と選考】 大会に先立ち、抄録原稿を提出していただきます(英文でA4半枚~1枚程度)。募集件数(4件)を上回る応募があった場合には、発表者の選考をおこないます。発表の可否は、個別に連絡をします。

【申込締切】 **6月8日(水)に延長されました!**

【申込先】 大会HPの「発表者の方へ」に記載の**発表登録フォーム**からお申し込みください。

【発表予定者】 大会に先立ち、抄録原稿を提出していただきます(英文でA4半枚~1枚程度)。執筆の際は、大会HPの「発表者の方へ」に記載のテンプレートを参照してください。提出期限は**7月20日(水)**です。発表当日に使用するパワーポイント資料も提出していただきます(提出時期は各発表者に追って通知します)。発表者の責任のもと、英語のチェックを受けた資料を完成させてください。

【そのほか】 審査のための査読はありません。石井奨励賞の対象にはなりません。

ラウンドテーブルについてのお問い合わせは、出口朋美 tdeguchi<AT>jus.kindai.ac.jpまで(<AT>を@にしてください。)

## 2016年度年次大会研究発表募集要項

次の事項をお読みいただき、奮ってご応募ください。

### 1. 発表テーマ

本学会の趣旨に沿ったもので、未発表のものに限ります。

### 2. 応募資格

- (1) 筆頭発表者は、発表申込の時点で正会員・学生会員・シニア会員であることが必要です。筆頭発表者となるのは1人1回に限ります。ただし、連名発表者についてはこの限りではありません。(応募時に2016年度の会費を納入していることをご確認ください。)
- (2) 筆頭発表者が会員であれば、連名発表者は非会員でも可能です。ただし、非会員連名発表者は、大会準備委員会の承認を受ける必要があります。登録フォームの「(7) その他発表者全員の氏名と所属」の欄に、必要事項を書き込んでください。
- (3) 発表者と連名発表者(非会員連名発表者を除く)は2016年度の年会費を**6月1日(水)**までに納入してください。
- (4) 発表者と連名発表者(非会員連名発表者を含む)は、大会参加費を**7月20日(水)**までにお支払いください。
- (5) 連名発表者の方は、大会当日に欠席される場合であっても、大会参加費はお支払いいただく必要があります。**7月20日(水)**までにお支払い頂けない場合は、大会当日用の料金となります。

### 3. 発表時間

30分(発表20分、質疑応答10分)

### 4. 発表申込締切

**2016年6月8日(水)に延長されました!**

### 5. 申込要領

大会ウェブページに掲載の申し込みフォームを使用し、次の12点についてお知らせください。

- (1) 発表タイトル / Title ※応募時のタイトルからの変更はできません。ご注意ください。
- (2) 発表形式(口頭発表、ポスター発表またはラウンドテーブルディスカッション) / Type of presentation (Oral presentation, Poster presentation or Round Table Discussion)
- (3) 非会員でラウンドテーブルディスカッションに応募する場合の(会員の)推薦者 / Reference name for Round Table Discussion (if you are a non-member)
- (4) 応募者 氏名 / Name of the head presenter (contact person)
- (5) 応募者 所属(大学等機関名) / Affiliation \*学生の場合は、大学名の後に所属学部/研究科名+課程名を記載
- (6) Email
- (7) Tel
- (8) その他発表者全員の氏名と所属 / Name(s) and affiliation(s) of co-presenters \*非会員連名発表者がいる場合は、本発表の中で果たしている役割について説明してください。(100字以内) / Please explain the role of non-member co-presenters (50 words)
- (9) 発表要旨(400-600字) / Abstract (250-300 words) \*要旨には以下①②を含めるようにしてください。 / Please include the following two points in the abstract. ①発表の主旨と背景/理論 / Intent and background / theory ②研究/実践について:目的、対象、方法(データ、参加者、手続きなど)を明記してください。結果については要旨には記載する必要はありませんが、抄録執筆の際に必ず記載してください。記載のない場合は、発表を取り消すことがあります。 / Please include purpose, object, and methodology (including data, participants, procedure, etc.). Result is not required in the abstract, but must be included in the proceedings. Exclusion of the result will lead to cancellation of the presentation.
- (10) 多文化関係学との関連性(約200字) / Please explain the relevance of your proposed topic to the conference (about 100 words).
- (11) 本学会の関連主要研究領域 / Research area
- (12) 石井奨励賞の応募 / Application for Ishii Incentive Award

### 6. 発表者の決定

発表申込書は大会委員会で審議し、6月中旬を目途に採択の可否を電子メールでご連絡します。

### 7. 抄録原稿の提出

発表予定者は発表内容の抄録原稿をtabunka2016<AT>gmail.com(<AT>を@にしてください)までお送りください(**7月20日(水)必着**)。詳細は採択可否のメールでお送りします。執筆にあたっては**大会ホームページに掲載の抄録執筆用テンプレートをご参照ください。**

## 多文化関係学会研究発表 石井奨励賞

石井奨励賞は、若手研究者のキャリア開発支援のひとつとして、優れた研究発表を促進し、表彰するという目的のもと、次の手順で審査・表彰がおこなわれます。応募される方は、大会ホームページ内の発表申込みフォームの最後にチェックをしてください。

### (1) 対象者

年次大会において、単著による「口頭発表」もしくは「ポスター発表」をおこなう、次の①②いずれかの会員：①学籍のある大学院生；②大会時、任期に限りのある職に就いている教員・研究員等。抄録送付の際、①②いずれの条件に該当するか明記すること。該当する会員すべてが選考の対象となる。

### (2) 審査方法

【一次審査】抄録原稿(A4・4頁)により、若干名を選考する。※抄録が2頁の場合や、共著発表の場合は対象としない。

【二次審査】一次審査を通過した会員の口頭発表及びポスター発表の内容並びにプレゼンテーションを審査し、研究の将来性も踏まえたうえで若干名の受賞者を選考する。

### (3) 副賞

2万円

### (4) 学会誌への投稿の推奨

受賞者に対しては、対象となった発表をもとにした完成原稿を次号の『多文化関係学』に投稿することを強く奨励するが、義務とはしない。なお、投稿された論文は通常の査読にかけられ、審査がおこなわれる。論文が採用になった場合、「石井奨励賞受賞論文」と明記の上、学会誌に掲載される。

### (5) 表彰

年次大会後に発行されるニュースレターに、石井奨励賞受賞者名、論文タイトル、学術委員会によって結成された審査委員会による講評を掲載する。翌年の年次大会の総会において、受賞者の表彰がおこなわれる。

## 大会までのスケジュールと参加費

- ◆3月15日(火) 発表募集・参加申し込み開始
  - ◆6月8日(水) **(発表申し込み締め切りが延長されました！)** 発表審査開始
  - ◆6月中旬ごろ 審査結果通知
  - ◆7月20日(水) **抄録提出締め切り、大会事前参加申し込みおよび事前払い締め切り**
  - ◆9月上旬 プログラム発表
- \*開催時期が例年に比べて早期のため、発表申し込み等の締め切りも早まっております。

### 大会参加費（会員の事前払いは1,000円割引）

### 懇親会参加費（会員の事前払いは500円割引）

種別	事前払い (7月20日までに送金)	当日払い	種別	事前払い (7月20日までに送金)	当日払い
正会員	5,000円	6,000円	正会員	5,000円	5,500円
シニア会員	5,000円	6,000円	シニア会員	5,000円	5,500円
学生会員	2,000円	3,000円	学生会員	4,000円	4,500円
非会員	7,000円	7,000円	非会員	6,000円	7,000円
非会員学生	4,000円	4,000円	非会員学生	5,000円	6,000円

### プレカンファレンス参加費

1,500円(会員種別を問わず共通。事前払い・当日払いで共通)

年次大会お問合せ先 tabunka2016<AT>gmail.com (<AT>を@にしてください)

年次大会ウェブサイト <http://js-mr.org/taikai2016/>

# 2015年度多文化関係学会 理事会議事録 抄録

## ■第4回理事会 議事録

**日時**：2016年3月12日(土)12:00-14:45

**場所**：学大語国外屋古名 7館号3階738室教

**出席**：7名(敬称略、以下同)石黒、笠原、田中、中川、長谷川、湊、渋谷

**委任状**：6名 守崎、山本、山田、奥西、出口、原

### [報告事項]

#### 1. 事務局

- ・ 会員数:368名(内学生100名、シニア3名、海外11名)。
- ・ 会費未納・連絡不通の会員の扱いについては今後の課題とする。
- ・ J-STAGE移行は8月以降公開開始、最新号から行われる予定である。

#### 2. 各委員会報告

[学会誌編集委員会]学会誌次号の投稿締め切りは2016年4月30日。今年度退任委員の後任は現時点で未定。早急に後任候補者の人選に取り組む。

[学術委員会]委員任命により体制が整った。特定課題研究の選考を実施した。

[関西中部地区研究会]2回目の研究会を3月12日に名古屋外語大で開催。

[関東地区研究会]今年度は2回の研究会を実施。懇親会を茶話会方式に変え、以前より多くの出席者の交流が可能になった。各回参加者は21名(+話題提供者1名)、23名(+話題提供者2名)。

[NL委員会]NL夏号の原稿の担当者を確認。原稿締め切りは2016年5月8日。

#### 3. 年次大会について

- ・ 2016年度大会の準備状況  
基調講演、シンポジウム、キャリア・セッション、英語発表ラウンドテーブル、に関して内容が確定した。発表応募締め切りは6月1日。
- ・ 2017年度大会の日程  
藤女子大を会場に開催する大会について、日程を2017年9月8日(金)、9日(土)、10日(日)に設定することが了承された。

#### 4. その他

- ・ 2015年度の大会は黒字となる見込み。黒字分で、大会におけるラウンドテーブルディスカッションの成果をもとに、英語プレゼンに関する冊子作成を予定。

## [協議事項]

### 1. 学会誌の発行・発売・制作に関する覚書および学会誌販売促進戦略

インターブックスとの間で2013-14年度すでに話し合われた学会誌販売、保管等の業務委託に関する覚書が未締結であった経緯説明が事務局長からなされた。保管料についてインターブックスに再確認し、理事会了承をうけ覚書締結を行うこととした。

### 2. 特定課題研究の選考結果について

第1回特定課題研究募集について、審査経緯の説明および結果の提案が委員長からなされた。募集のかけ方、審査基準、および審査結果について議論された結果、審査対象となる応募が1件のみであったこと、またその1件についても特定課題研究として十分といえる内容が確認できないことから、今回は採択を見送り、再募集を実施することが提案され、合意された。

再募集に関わるスケジュール、告知方法、応募書類書式等については、学術委員長を中心に関連理事が素案を作り、理事会に提案することとした。

### 3. 内規・総会についての規定

総会規定素案を元に審議が行われ、了承された。なお、当該内規は多文化関係学会会則の内規3.に追加する。

### 4. 総会、理事会、諸委員会の議事録の開示について

会員からの情報開示の要望に関し、理事会の議事録の公開をNLの発行を待たず、準備できた段階でMLまたはHPで行うことを決定した。

### 5. ヘイトスピーチ声明文について

理事会として慎重に議論した結果、学術団体として、学術研究活動を社会に発信していく形がより望ましいという合意を得た。したがって、今回、会員より提案のあった声明文については、学会として発表は行わないが、会員が個人的に声明文を出すことについては妨げるものではないことも確認した。

### 6. 次期理事選挙について

2016年度で任期の切れる理事が6名となることを受け、理事選挙の準備を始めることを決定した。

### 7. 2016年度予算案について

次年度予算編成中のため、各委員会での活動などで前年度と大きく変更する項目、新設したい項目がある場合は、事務局に連絡することを確認した。

以上

# 地区研究会報告

## ■ 関東地区研究会報告

日時: 2016年3月5日 13:00-16:00(プログラム) 16:00-17:00(茶話会)

場所: 青山学院大学

テーマ: 文化的差異はどのように理解され、経験されるのか?: 日本社会のコンテキストを踏まえて

話題提供者1: 山本志都先生(東海大学)

タイトル: 異文化感受性の日本での実証研究に基づく考察とその教育・トレーニングへの応用

今回の研究会は2件の話題提供があり、はじめに山本志都先生がアメリカで開発された「異文化感受性発達モデル」の日本版構築と応用の試みについて解説され、後にふたつの話題について参加者全員がグループに分かれて討議しました。

山本先生の話題提供では、まず、日本版のベースとなるMilton Bennettが開発した「異文化感受性発達モデル」(DMIS: Developmental Model of Intercultural Sensitivity)について説明がありました。文化的差異に対する感受性を自文化中心から文化相対に向かう発達モデルとして示すもので、否定、防衛、最小化、受容、適応、統合の6つの段階が想定されています。一般的にモデルは改訂を前提とするものですが、このモデルについても検討が重ねられており、“最小化”については2つの異なる見解があります。DMIS 開発に関わっているBennettとHammerは、ともに“最小化”を自文化中心から文化相対への移行期としていますが、その程度について、Hammerがより文化相対に近いと想定しているのに対し、Bennettは「『最小化』における経験は理論的に自文化中心的」としています。

次に、山本先生の日本人大学生を対象とした渡米前、渡米直後、5か月後の半構造化面接を質的に分析した研究が報告されました。抽象的レベルの共通性に注目する“最小化”がみられず、異質性に対する強い抽象的認識、具体的場面での自文化の枠組みの適用と相手からの理解の期待、身体的類似・差異に敏感、という結果が示されました。

この研究結果とBennett・Hammer間の“最小化”への見解の相違から、日本の文脈における文化的差異の認知について“最小化”相当部分に注目した新たな研究課題が導き出されました。文化的差異の経験が

どのように認知され言語表現されるかについて質的に探索し、さらにDIMISとは異なる日本型の異文化感受性認知の構造を量的に検証する、混合研究法を用いた研究です。

その結果、不関与(拒絶・逃避)、無効化、克服(曖昧化・積極性)、容認(譲歩・尊重)、内面化というカテゴリーが抽出され、“曖昧化”と“譲歩”が自文化中心から一步踏み出すステップになっている可能性が明らかになりました。“曖昧化”は「さほど違いはないはずと思うことで…違いの境界線をぼかし恐怖心をやわらげて心の壁を下げ」、 “譲歩”は「違いの受け止め方を工夫し…できる範囲で譲歩しながら容認する心の幅を広げ、相手に対する解釈の幅を広げていく」ことです。

最後に“曖昧化”と“譲歩”の活用案が示されました。前向きで主体的な“曖昧化”の促進法として、境界線を作られたものであることを理解するためにリフレーミングを行うデジタル型と、「つながり」の感覚によって自他が包括される状態を作るアナログ型が紹介されました。また、不快な気持ちを逃がし文化的差異の受容を進める“譲歩”については、違いと向き合う方策の検討と、解釈ストーリーの意識が活用例として紹介されました。

討議は着席順の番号づけによる偶然性の高いグループ分けで行われましたが、意見交換は非常に活発で、全体総括のときには黒板に書ききれないほどのコメントが出されました。多文化・異文化にかかわる人たちの間で広く知られたモデルの日本の文脈での再検討がテーマだったわけですが、モデルに対する建設的批判が多く寄せられたことからオリジナルモデルへの注目度が高いことがわかったのと同時に、欧米発達モデルから脱却し日本の文脈での研究・実践の充実を求めるモメントの強さ、そして今後の具体的プログラム開発への期待の強さを実感しました。



**話題提供者2:** 石黒武人先生(順天堂大学)

**タイトル:** 多面的理解を支援する「コンテキスト間の移動」(Context-Shifting)

石黒武人先生は、種々のコンテキストへ意図的に視点を移動することによって、現象の意味を多面的に理解するためのモデル(コンテキスト間の移動: Context-Shifting (CS))を紹介してくださいました。

まず、その背景として、多様かつダイナミックに変化する現象を、限られた数のコンテキストを用いて理解する傾向が私たちにはあり、それにより、誤解、摩擦、対立が起きてしまう恐れがあることを指摘されました。その上で、石黒先生はCSを「人々が現象を理解する際に、最初に用いたコンテキストから別のコンテキストへ意図的に視点を移動し、認知的フレームを変更することであり、それに続くエンパシーの実践である」と定義され、現象の限定的理解を解きほぐし、より多面的に理解する過程を支援することができるモデルであると説明されました。

次に、異文化コミュニケーション能力(ICC)研究におけるCSの位置付けを概説された上で、CSが示す3層構造のフレームワーク、すなわち、マイクロ・コンテキスト(コミュニケーションにおける特定の状況)、メゾ・コンテキスト(①組織タイプ、職務グループ、②カテゴリー指標: 属性による配置、地理的配置の2層)、マクロ・コンテキスト(トピック指標: グローバル・トピック、形而上学的トピック)を紹介されました。そして、カナダに留学している中国人と日本人の異文化コミュニケーション摩擦を例に挙げ、自動的に前景化されたコンテキストを相対化および脱中心化するプロセスを、CSモデルを用いて示されました。



後半のディスカッションでは、シフトにはリスクと困難が伴う(例えば、移動することで仲間から排除される恐れがある)のではないかとといった指摘や、モデルを目標とすることによるメンタルヘルスへの影響、シフトによる認知または情動の変化をどう行動に結び付けていくのか、といった様々な意見が参加者から挙げられました。さらには、教育(トレーニング)にどのように応用していきけるのか、といったところまで議論は深まりました。

議論の場も含め、非常に多くの刺激を受けたセッションでした。異文化コミュニケーションの幅広い領域において、様々な応用が期待できるモデルにいち早く触れることができ、大変得をした気分になれた研究発表でした。

報告者: 横溝 環 (茨城大学 人文学部人文コミュニケーション学科)

## ■ 関西・中部地区研究会報告

**日時:** 2016年3月12日

**場所:** 名古屋外国語大学7号館3階(738教室)

**話題提供者1:** 鈴木崇夫(名古屋外国語大学外国語学部非常勤講師)

**タイトル:** 「多文化共生」における継承語の存在—東海地方の事例を通して多文化共生継承語教育を考える

本報告では、東海地方における母語・継承語教育の実践から、日本の義務教育課程における「継承語教育」のあり方が検討された。

愛知県では、「あいち多文化共生推進プラン2013-2017」が策定され、課外における母語、母国語の支援が施策目標の一つに掲げられている。具体的には、外国人県民がコミュニティ内で母語、母国語による教科指導を行う取り組みがなされている。同県ではフィリピン語や中国語が母語とされる「外国人児童生徒」が増加傾向である。しかし、子どもの「母語」は家庭での言語使用によって決まるため、「外国人児童生徒」の全てがフィリピン語や中国語を「母語」とするわけではない。母語とはあくまでコミュニケーション・ツールとして機能的、限定的に理解する必要がある。

報告者は、このような限定的な意味での「母語」に代わる概念として「継承語」を提起する。継承語とは「家庭とは異なる言語環境で育つ子どもが、親から受け継いだことば」を意味する。継承語学習は、単にコミュニケーションの手段としてではなく学習者自身のルーツを理解するためのものである点、また家庭で実際に使用する場面があることから親との心理的な距離を縮め学習者の情緒的な安定を促がすことができる点で、外国語学習とは異なる意義を持つ。

東海地区では、学校や教育委員会、NPOが主体となった母語・継承語教育の取り組みがある。これらには学校教育の課程外、課程内で行われるものが含まれるが、報告者は課程内で継承語教育を行うべきであると主張する。なぜなら、外国人児童生徒の継承語は、彼ら・彼女らだけのものではなく、日本の大切な言語資源であるからである。「多文化共生」という観点からも、学校教育課程内で継承語教育を推し進める意義は大きい。



本報告は、「継承語教育」の推進を「多文化共生」の実現に向けた課題として位置づけている点で非常に示唆的である。昨今、「外国人児童生徒」の「母語」を断定することが難しくなり、母語教育の必要性が問い直されている。そのような中で「親から受け継いだ言語」としての「継承語」を学ぶ機会を保障することが、親との関係構築や学習者自身の自己理解、ひいては「多文化共生」にとって重要な意義をもつという報告者の指摘は、日本における言語教育の研究、実践に新たな地平を開くものとなるのではないだろうか。

報告者：田中稜(大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程)

**話題提供者2:** 矢元貴美(大阪大学グローバルコラボレーションセンター招聘研究員、宮城学院女子大学非常勤講師、兵庫県立学校・大阪府立学校非常勤講師)

**タイトル:** 日本の公立学校におけるフィリピン語の母語・継承語教育

矢元氏の御報告は、関西の公立中学校・高校で行われているフィリピン語の実践事例を基に、母語・継承語教育が公立学校で行われる意義と課題を検討したものであった。

先行研究の整理から、母語・継承語教育の現状を俯瞰したうえで、矢元氏が携わっている3校の現場での実践事例紹介がなされた。はじめに、大阪市立小・中学校「帰国した子どもの教育センター校」のフィリピン語の母語支援教室である。生徒の居場所づくりを目的に、2004年度から今日に至るまで実施されている。2015年度はセンター校2校でそれぞれ8回と7回実施された。各回は2時間に設定されており、カリキュラムはなく、その時々に必要なことを行う体制となっている。つぎに、大阪府立長吉高校の「ネイティブカルチャー」での実践である。これは各々のルーツに基づく自尊感情の育成とアイデンティティの確立を目的とし、2015年度は9言語で実施された。フィリピン語の授業は各学年に週1コマずつ配置され、単位が認定される。最後に、兵庫県立芦屋国際中等教育学校の「総合的な学習の時間」での取り組みである。ここでは母語・継承語の学習を通して学んだことを体験する試みや調べ学習を通じた学習者



の主体性を大切にされた実践がなされている。近藤が関心をもったのは、活動が母語・継承語を学ぶ機会であることに加えて、文化を学ぶ機会としても機能している点である。校外でダンスを披露したり、文化祭で料理を振る舞ったりと成果を社会に発信している。これにより、彼らに社会のスポットライトが当たり、さらには新たな人間関係の形成が期待できると感じた。

さらに今回は、学習者である生徒たちが母語・継承語学習にどのような意義を感じているかについての報告もなされた。自らのルーツを認められていることや、同じ言語や経験をもつ人々との時間を共有できるという居心地の良さを感じていること等が指摘された。学校文化の観点では、「みんな一緒」がよしとされる同化圧力が日本の学校には存在し、違いを排除する傾向にあることがこれまでの研究から指摘されている。結果として、他者との違いから自己表出が抑制され、自尊心を失う子ども・若者の存在が見られる。そのなかで、今回の矢元氏の御報告は非常に示唆に富むものであったと考えている。

報告者：近藤大祐(公益財団法人 名古屋国際センター)

## ■九州地区研究会報告

**日時：**2016年3月10日 13:00-15:30

**場所：**九州大学伊都キャンパス比文言文教育研究棟4階第8セミナー室

**話題提供者：**岩渕泰氏(岡山大学地域総合研究センター助教)

**タイトル：**多様性の中の参加民主主義-ポートランド市のまちづくりから-

平成27年度第一回の九州地区研究会は岡山大学の岩渕泰氏をお迎えし、「多様性の中の参加民主主義-ポートランド市のまちづくりから」というテーマで発表していただいた。アメリカ・オレゴン州ポートランド市は、全米で最も暮らしやすいまち、バイクのまち、環境にやさしいまち、低炭素型社会をめざすまち、グルメのまちなど、近年、ライフスタイルを重視したまちづくりのモデルとして注目を集めており、日本の多くの自治体や大学関係者も強い関心を寄せ、視察・訪問をしているとのことである。発表では、冒頭に1960年代以降ポートランド市で展開されてきた活発な市民活動の事例、具体的には公共交通機関の導入、環境に配慮した都市計画、新しいアイデアやコンテンツを受け入れ経済の原動力としてきた事例が紹介された。

多様性の中の参加民主主義の観点から、市民参加型のまちづくりを展開してきたポートランド市が、様々な人種、移住者、低所得者層、若者、老人、ホームレスなど様々な人々をどのように街づくりに「巻き込んで」いったのかについて報告していただいた。多様な文化的背景、経済状況、おかれた環境などをどのように理解・配慮するのか、そしてそれらの差異を認識した上で市民参加を強化し、まちづくりに反映させていく上で鍵となるEQUITY(公正性)とEQUALITY(公平性)の2つの概念を再検討する重要性を教示していただいた。

ポートランド市は、貧富や教育の格差等により公共サービスのアクセスに偏りがないように配慮している。また「自分に見合った将来を創造するためのチャンスにみんながアクセスできる」ことを理念に掲げており、様々な機会へのアクセスが難しい人々への支援を行政の力ではなく、市民運動、活動を通じて実現しているという。ポートランド市の先進性を最も顕著に示している点を提示していただいた。成熟した多文化共生社会の構築を目指す上で、外国籍住民を含むマイノリティや弱者をどのように捉えるか、多様な人々の声が出出できる場をいかに創出していくかなど示唆に富む研究会となった。



## 地区研究会案内

### ■北海道・東北地区研究会

**日時**：2016年9月10日(土) 14:00～

**場所**：藤女子大学(北16条校舎)555室  
〒001-0016 札幌市北区北16条西2丁目  
TEL/代表(011) 736-0311  
メールアドレス:伊藤明美 itoakemi@fujijoshi.ac.jp

**講演者**：古家 聡(立教大学)

**テーマ**：個人主義と集団主義の実証的研究とパラダイムシフト

**話題提供者**：小林登志生(総合研究大学院)

**テーマ**：The Right to Communicate

\*研究会終了後、発表者を囲んでの懇親会を予定しております。

2017年に予定されていますJCA年次大会(北海道、藤女子大学・北16条本校キャンパス9月8日(金)～9月10日(日))の期間は、札幌には多くの観光客が訪問し、**ホテルが満席になります**。したがって、ホテル予約については、ネット、旅行代理店、その他を通して「事前」予約をして部屋を確保下さい。予約が早ければ早いほど、格安料金のホテルも抑えることができます。キャンセルは、10月中に可能です。

### ■関西・中部地区研究会

戦後70年を経た今、関西・中部地区ではこの1年をいま一度平和について考える年にしたいと願い、以下のような二つの研究会を企画致しました。

#### 【第1回研究会】

**日時**：7月29日(金)18:00～20:00

**場所**：高槻市立総合市民交流センター(クロスパル高槻) 第3会議室 (JR高槻駅より徒歩1分)  
高槻市紺屋町1-2 電話：072-685-3721  
高槻市立総合市民交流センターの詳細・場所については、センターのホームページにてご確認ください。**阪急高槻駅に近い「高槻市立生涯学習センター」ではありませんので、ご注意ください。**

**話題提供者**：奥本京子(大阪女学院大学 国際・英語学部教授)

**タイトル**：消極的平和、積極的平和、そして芸術アプローチによる紛争転換：東北アジアに思いを馳せ

**概要**：世界においても、また私たちの暮らす東北アジアにおいても、社会が緊張状態にある現在、私たちは何を考え、何をなすべきであろうか。「平和」やその対概念である「暴力」、また「コンフリクト(紛争・対立)」などのことばを、改めて整理し、平和を構築するための作業・役割についての認識を共に深めたい。

平和を思考・志向するとき、それを実践に移していくことが困難に感じられることがある。平和行動とは何か、その事例から何を学べるであろうか。「東北アジア地域平和構築インスティテュート(NARPI、ナルピ)」は、行動主体を形成するために重要なトレーニングを毎夏開催している。そこでは、多岐に亘る技術の訓練に加え、態度・構えを養成しようとしている。また、信頼醸成は健全で平和を目指す市民社会のためには必要不可欠である。

平和構築に必要な紛争解決・紛争転換の概念について、また芸術アプローチの可能性について、相互に交わり合いながらのひとときを大切に過ごさせていただきたいと考えている。

**講師略歴**：神戸女学院大学大学院文学研究科英文学専攻博士後期課程単位取得退学、博士(文学)

Department of Politics and International Relations, Lancaster University, UK, Master of Arts in Peace Studies.

現在、大阪女学院大学国際・英語学部教授、NARPI(東北アジア地域平和構築インスティテュート)運営委員長、トランセンド研究会副会長、国際トランセンド東北アジア地域コンビーナー、非暴力平和隊・日本理事。

専門は、平和学、平和ワークにおける芸術アプローチ、紛争転換・非暴力介入論、ファシリテーション研究、メディエーション研究、NGO活動研究など。東北アジアにおける和解のプロセス(平和ワーク)を、朗読劇など多様な芸術形態をとおして探求することや、東南アジアや南アジア、そして他地域における紛争転換・非暴力介入のためのネットワークを深化させることに注力している。さらに、ワークショップの手法により、平和創造のためのファシリテーション・メディエーションを如何に深化させることができるか、また、市民社会における平和ワークに関するNGO活動について研究している。

主な著書に、『平和ワークにおける芸術アプローチの可能性:ガルトゥングによる朗読劇Ho'opono Pono: Pax Pacificaからの考察』法律文化社、『国際関係入門:共生の観点から』(共著)東信堂、『平和学を学ぶ人のために』(共著)世界思想社、『非武装のPKO:NGO非暴力平和隊の理念と活動』(共著)明石書店、『北東アジアの平和構築:緊張緩和と信頼構築のロードマップ』(共著)大阪経済法科大学出版部、Dramatherapy and Social Theatre: Necessary Dialogues (共著)Routledge、訳書に、『ガルトゥング紛争解決学入門:コンフリクト・ワークへの招待』(共監訳)、法律文化社など。

## 【第2回研究会】

日時：10月16日(日)

話題提供者：近藤紘子(広島原爆被爆者)

\*本研究会は異文化コミュニケーション学会関西支部、Osaka JALT、Kyoto JALTとの共催です。時間や場所などの詳細については、追って会員MLを通じてお知らせします。

【問い合わせ先】 中川典子(関西・中部地区研究会委員長、流通科学大学人間社会学部)

メール:Noriko\_Nakagawa@red.umds.ac.jp 電話:078(794)3555 (大学代表)

## ■中国・四国地区研究会

日時：2016年6月4日(土)14:00~16:00

場所：岡山理科大学(岡山市理大町1-1) A1号館10階会議室

<http://www.ous.ac.jp/access.php?jpml=accessmap> (アクセス)

話題提供者：坂本南美(兵庫県立大学附属中学校教諭)

テーマ：カナダ人外国人指導助手(ALT)の語りから分析する日本の学校でのアイデンティティ変容

概要：1987年以降、英語のネイティブスピーカーがALT:Assistant Language Teacher(外国人指導助手)として日本の教育現場に配置されるようになり、日本の教育現場における外国人と日本人教員の異文化間コラボレーションは日常的に行われるようになりました。2016年度の中国・四国地区研究会では、兵庫県立大学附属中学校教諭の坂本南美先生をお招きし、ALTによる同僚の日本人教師や生徒との関わり合いが、彼/彼女らの持つアイデンティティにどのような影響をもたらすのか、アイデンティティの変容が、生徒との関わり方や英語の教授スタイルにどのような影響を与えるのかについて、教育現場における実践者および研究者という両方の視点から情報提供をいただきます。

本発表では、カナダ人ALTのインタビュー調査に基づくナラティブの分析を通して、ALTとしてのmeaning-makingを行うプロセスとアイデンティティの変容についてご説明いただきます。日本の学校文化における社会的関係が、教師としての行動や人としての成長にどのような影響を与えていくのかを明らかにすることで、ALTとの関係性構築が日本の教育現場においてもたらす意味について知見をご提供いただきます。20年以上にもわたる公立中学校でのALTたちとのティームティーチング(=異文化間コラボレーション)に取り組み中で見えてきた多文化関係のダイナミクスについて学び、考える、貴重な機会になることと思います。

お申し込み方法：学会員・非学会員を問わず、どなたでもご参加いただけます。

参加は無料です。メールでお申し込みください。

担当 奥西有理(岡山理科大学) okunishi@ped.ous.ac.jp (◎を@に)

# お知らせ

## WEB 管理委員会より

### ■ 会員登録情報更新のお願い

ご所属・e-mailアドレスなど会員登録情報の更新をお願いいたします。会員登録情報の変更は会員各自で行えます。登録情報を更新しなければ学会からのお知らせが届きません。登録情報に変更があった場合は更新をよろしくごお願い致します。また、e-mailアドレスについては、現在使用されていないアドレスの方がいらっしゃいますので、今一度ご確認ください。なお、IDやパスワードがお分かりにならない方は事務局(admin@js-mr.org)宛に御連絡下さい。

### ■ 登録情報の更新手順

登録情報変更手順は、以下のようになっています。

1. 多文化関係学会ホームページ(URL: <http://www.js-mr.org/>)
2. 学会員専用サイト(会員番号・パスワードを入力し、ログインボタンをクリック)
3. 登録情報更新をクリック
4. 変更点を修正し、一番下の更新をクリック

(Web管理・広報委員会委員長 出口朋美)

## 学会誌編集委員会より

### ■ 学会誌第13巻へのご投稿御礼

会員のみなさまにおかれましては、学会誌第13巻に多数ご投稿いただきありがとうございますございました。「投稿規定」第11条に定められている投稿締切日を約1週間延長したところ、過去4年間で最多のご投稿をいただく結果となりました。改めてここに御礼申し上げます。

会員のみなさまからのご投稿を受け、5月15日(日)、明海大学において学会誌編集委員会を開催いたしました。現在、ご投稿いただいた論文の内容に応じ、各編集委員から査読委員の依頼を差し上げているところです。5月末までに査読委員を確定し、審査に入っていただくこととなります。編集委員から査読の依頼があった際は、ぜひご快諾をいただきますようお願い申し上げます。

また、査読委員選出の作業過程において、ご所属先・メールアドレス・ご住所等の変更が生じている例が少なからず見受けられました。この場を借り、会員情報の更新も併せてお願いしたいと思っております。

(学会誌編集委員会委員長 笠原正秀)

## 学術委員会より

### ■ 第1回特定課題研究審査結果について

多文化関係学会では、会員間での研究連携の活発化を進めるために、第1回「特定課題研究」の募集を行いました。募集期間は2015年11月30日から2016年2月14日まで(当初1月31日までだったものを延長)であり、期間内に2件の応募がありました。ただし、うち1件はその後審査を取り下げたため、最終的には1件の応募について、学術委員会での審査および理事会での協議を行いました。

特定課題研究の公募や審査は学会として初の試みであり、学術委員会、理事会とも詳細な議論を重ねました。ただ、審査対象となる応募が1件のみしかなかったことなどから、結果として今回は採択を見送り、再募集を実施することといたしました。再募集の受付期間や応募方法等の詳細につきましては、学術委員会及び理事会で近日中に策定した上で、学会ウェブサイトで公開いたしますので、その際にはご確認いただければ幸いです。

特定課題研究は、学術領域や地区の枠にとらわれない研究者間の連携とともに、本学会がめざすところである、多様な文化間の相互作用についての多面的かつ動的な研究や、これまでの学問体系を横断的に切り開く新しいパラダイムの転換に資する研究を推進することで、本学会の活動の活発化に貢献することを目指す制度です。ご関心のある方の応募をお待ちしております。

湊 邦生（多文化関係学会学術委員長）

## 事務局より

多文化関係学会は2002年6月の設立後、このニュースレターが発行される6月で丸14年が経過いたしました。これも会員の皆様のご協力のおかげでございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。以下、事務局からのお知らせです。

### ■会費納入状況に関するお問い合わせについて

お問い合わせは、会費に関する業務を委託しております学協会サポートセンター(scs@gakkyokai.jp)までお願い致します。その際、メールの件名は「多文化関係学会」とし、ご自分の氏名、会員番号、ご用件をお書きください。また、住所・所属などに変更がございましたら、大変お手数ですが、この学会員専用サイトにログインし、ご自分で情報を更新していただくとともに、送付物の住所を管理している学協会サポートセンターにもご連絡ください

### ■学会ホームページ「学会員専用サイト」の会員番号とパスワードについて

学会ホームページ(HP) <http://www.js-mr.org/> では、登録情報の更新などを行える「学会員専用サイト」があります。情報の確認及び更新をお願い申し上げます。学会員専用サイトへのログインには、会員番号とパスワードが必要です。お忘れになった方は、事務局(admin@js-mr.org)までお問い合わせください。

### ■学会誌『多文化関係学』バックナンバーの販売について

学会誌の販売は、株式会社インターブックスに委託いたしております。学会誌バックナンバーのご購入をお考えの会員の方々は、恐れ入りますが、学会事務局ではなくインターブックスにお問い合わせください。

ホームページ：<http://www.interbooks.co.jp/>

メールアドレス：info\_ml@interbooks.co.jp

電話番号：03(5212)4652 ファクス番号：03(5212)4655

なお、学会誌『多文化関係学』の論文は、論文検索サイトCiNii(2017年3月に終了→J-STAGEへ移行の手続き中)において順次掲載されております。

## 新入会員紹介（敬称略、入会順）

会員資格	氏名	所属	研究分野 / 業務内容
学生	桜木 由美子	立教大学大学院	異文化コミュニケーション、留学支援、コミュニティデザイン
一般	前原 直子	沖縄国際大学	移民研究、多文化共生論

(2015年11月1日から2016年4月30日に入会された方)

## NL 委員会より

### ■ 著作図書案内・書評・海外シンポジウム参加報告記事募集

ニューズレター(NL)委員会では、次回30号(2017年2月発行予定)掲載記事として、会員の皆様の著作図書案内、海外シンポジウム参加報告、震災関連や多文化関係学会に関連した研究、関連学会参加報告記事などを募集しております。以下(1)から(3)の記事をNL委員会に送ってくださいますようお願いいたします。

#### 募集する記事の内容

(1)学会の趣旨に関連すると思われる著作・訳書などを出された場合

募集対象とする著作の発行時期:2016年5月から2016年12月末まで

書名、著者名、出版社名、出版年、総ページ数と本の内容を200字以内で紹介

(2)学会の趣旨に関連すると思われる著作で、会員に広く紹介することが望ましいと思われる場合

募集対象とする著作の発行時期:2016年5月から2016年12月末まで

書名、著者名、出版社名、出版年、総ページ数と本の書評を200字以内でまとめる

(3)学会に関連する海外のシンポジウムや震災関連のシンポジウム、もしくは関連学会に参加された場合

募集対象とする時期:2016年5月から2016年12月末まで

◆記事の送付期日:2017年1月6日

◆記事の送付先:NL委員会 守崎 誠一宛(morisaki<at>kansai-u.ac.jp \*<at>を@に変更)

### ■ 関連学会の大会紹介記事の募集

会員に紹介するのにふさわしい関連学会の大会情報を随時募集しております。具体的には、(1)学会名、(2)大会名、(3)大会テーマ、(4)大会日時、(5)会場、(6)その他詳細(120字以内)をお書きのうえ、NL委員会委員長の守崎誠一宛て(morisaki<at>kansai-u.ac.jp \*<at>を@に変更)に送ってくださいますようお願いいたします。

## 会員新著紹介

### ■ 『ライシャワーの名言に学ぶ異文化理解』

著者:御手洗昭治(編著)・小笠原はるの(著)

出版社:ゆまに書房

出版年月:2016年5月

総ページ数:174頁

内容:ハーバード大学の歴史学者で日米と異文化間の架け橋であったエドウィン・O・ライシャワーの名言を通して、日本と国際社会のあり方とは何かを学ぶ。

利害が対立する時、相手を説得したい時、どのような言葉を使用してコミュニケーションし、難局を乗り越えればよいのか?本書ではケネディ政権時代の駐日大使でグレート・スピーチ・メーカー且つメディアエターとして知られるライシャワーの明快で平易で親しみやすい名言を和文と英文で紹介しながら、その生き方と平和思想を探る。これからの時代に求められる発信力と資質とは何か?それを知るために是非読んでおきたい一冊。

## ■ 『混合研究法入門：質と量による統合のアート』

著者：抱井尚子

出版社：医学書院

出版年月：2015年12月

総ページ数：138頁

**内容**：質的研究と量的研究という区分局を越える第三の流れとして、いま人文社系・保健医療系の研究者の間で注目されている混合研究法。本書は日本語による初めての入門書として、その概要と歴史的発展をおさえつつ、複雑かつ多岐にわたる混合研究法の研究プロセス・研究デザインを、実際の研究事例をまじえながらわかりやすく解説し、混合研究法の意義とこれからの展望を示す。コンパクトな形にまとめ、混合研究法のA to Zがスムーズにつかめる1冊。

## 編集後記

本NLで詳細をお伝えしましたように、佐賀での年次大会が10月に予定されております。会員の皆様はもちろんのこと、身近におられる非会員の方々にも広く周知をしていただき、多くの方々の参加によって大会が盛況のうちに終わることを願っています。

(NL委員会：守崎誠一・内藤伊都子)